

定期作況報告

(第3号 平成11年7月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

- 6月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.0℃、0.9℃高かった。降水量は平年より8mm少なく、平年対比61%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より6.6時間多く、平年対比114%であった。夏日（最高気温25℃以上）は4日間であった。
- 7月上旬：最高気温および最低気温は平年より各々0.7℃、0.6℃低かった。降水量は平年より5mm少なく、平年対比74%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より6時間多く、平年対比113%であった。夏日は6日間であった。
- 7月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々2.9℃、2.4℃高かった。降水量は平年より14mm多く、平年対比161%であった。降水日数は平年より2日多かった。日照時間は平年より10.8時間少なく、平年対比79%であった。夏日は7日間で、うち3日間は真夏日（最高気温30℃以上）であった。

6月下旬から7月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	24.0	23.0	1.0	23.7	24.4	▲0.7	27.7	24.8	2.9	25.1	24.1	1.0
最低気温(℃)	13.0	12.1	0.9	13.4	14.0	▲0.6	16.9	14.5	2.4	14.4	13.5	0.9
平均気温(℃)	18.2	17.3	0.9	18.3	18.8	▲0.5	22.0	19.3	2.7	19.5	18.5	1.0
降水量(mm)	12	20	▲8	15	20	▲5	36	22	14	63	62	1
降水日数(日)	2	3	▲1	2	3	▲1	5	3	2	9	9	0
日照時間(h)	54.8	48.2	6.6	50.6	44.6	6.0	41.2	52.0	▲10.8	146.6	144.8	1.8

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作況

1) 水稻の部

作況 良

事由： 幼穂形成期は「イシカリ」中苗が平年より1日早かったが、他の品種・苗は平年並～2日遅かった。止葉期は各品種・苗とも平年より1～3日早かった。主稈葉数は「ゆきひかり」中苗が平年より0.5枚多かったが、他の品種・苗は平年並～0.4枚少なかった。㎡当たり茎数は「きらら397」成苗が平年より60本少なく、平年比96%であったが、中苗はいずれの品種も平年より10～119本多く、平年比101～114%であった。草丈は各品種・苗とも平年より2.5～7.2cm長かった。

「きらら397」成苗の茎数は平年より少なかったが、生育進度を勘案し、7月30日の平年値(819本/㎡)と比較すると108%でかなり多い。このため穂数減には結びつかないと考えられる。

以上、止葉期が1～3日早く、茎数が中苗では平年を上回っていることおよび冷害危険期

に不稔を誘発するような強い低温が現れなかったことから、目下の作況は「良」である。
表2 生育期節

品 種 苗	幼穂形成期 (月・日)			止葉期 (月・日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	7.03	7.02	1	7.17	7.19	△2
ゆきひかり 中苗	7.05	7.04	1	7.18	7.21	△3
イシカリ 中苗	6.29	6.30	△1	7.15	7.18	△3
ゆきまる 中苗	7.02	6.30	2	7.16	7.18	△2
きらら397 成苗	6.30	6.30	0	7.16	7.17	△1

- 注1) 平年値は平成6～10年の5か年の平均値。
2) △印は平年に比べて早を示す。
3) 幼穂形成期の判定基準：全主稈幼穂長2mm
4) 止葉期：全茎の40～50%に達した日

表3 7月20日現在の本田生育

品 種 苗	主稈葉数 (枚)			茎数 (本/m ²)				草 丈 (cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較
きらら397 中苗	11.1	11.2	▲0.1	1004	945	59	106	65.4	62.1	3.3
ゆきひかり 中苗	10.7	10.2	0.5	958	839	119	114	65.2	62.7	2.5
イシカリ 中苗	10.1	10.5	▲0.4	811	801	10	101	75.2	68.0	7.2
ゆきまる 中苗	11.0	11.0	0.0	946	849	97	111	69.3	66.5	2.8
きらら397 成苗	10.9	11.2	▲0.3	884	944	▲60	94	69.5	63.7	5.8

- 注1) 平年値は平成6～10年の5か年の平均値。
2) ▲印は平年に比べて減を示す。

2) 畑作の部

(1) 秋播小麦 作 況 : 平年並

事 由 : 出穂期は平年より2日~4日遅れたが、出穂後、気温が平年より高く経過したため、登熟期間が短縮され、「ホクシン」の成熟期は平年の2日遅れにとどまった。

稈長は「ホクシン」が平年より5cm短く、他の2品種はほぼ平年並、穂長は各品種ともほぼ平年並であった。穂数は、「ホクシン」がほぼ平年並であったが、他の2品種は平年より70本/m²~80本/m²多い。

したがって、目下の作況は平年並である。

表1 7月20日の秋播小麦の生育

品 種 名	出 穂 期 (月日)			成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホロシリコムギ	6.16	6.12	4	未	7.20	—
タイセツコムギ	6.16	6.14	2	未	7.21	—
ホ ク シ ン	6.12	6. 8	4	7.18	7.16	2

品 種 名	稈 長 (cm)			穂 長 (cm)			穂 数 (本/m ²)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ホロシリコムギ	93	94	▲ 1	8.5	8.7	▲0.2	593	513	80
タイセツコムギ	86	85	1	8.9	9.1	▲0.2	590	520	70
ホ ク シ ン	83	88	▲ 5	8.4	8.5	▲0.1	646	639	7

注1) 「ホロシリコムギ」、「タイセツコムギ」の平年値は、前5か年平均値。

「ホクシン」の平年値は、前4か年平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

(2) とうもろこし 作 況 : 平年並

事 由 : 7月中旬の高温の影響で前期の生育の遅れは回復してきており、中生種の「キタユタカ」の草丈、出葉数はほぼ平年並となってきたが、晩生種の「P3732」は草丈、出葉数とも平年よりやや劣っている

したがって、目下の作況は平年並である。

表2 7月20日のとうもろこしの生育

品 種 名	草 丈 (cm)			出 葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ	220	222	▲ 2	16.2	16.6	▲0.4
P 3 7 3 2	196	212	▲ 16	16.1	17.1	▲1.0

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 平成10年度より栽植本数を 7576本/10aに変更した。

(3) 大豆 作況： やや良

事由： 6月下旬以降、全般的に高温に経過したため、開花期は平年より5日～6日早まった。主茎長、主茎節数はほぼ平年並で、分枝数は「トヨムスメ」が平年より多かったが、「トヨコマチ」は平年並であった。
したがって、目下の作況はやや良である。

表3 7月20日の大豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	7.12	7.18	△ 6
トヨコマチ	7.12	7.17	△ 5

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	48	49	▲ 1	9.7	9.8	▲0.1	8.0	6.0	2.0
トヨコマチ	56	55	1	10.7	10.6	0.1	6.4	6.4	0.0

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

(4) 小豆 作況： 平年並

事由： 前期に引きつづき、全般に高温に経過したため、生育は進んでおり、「サホロショウズ」は、平年より4日早い、7月17日に開花期に達した。主茎長、本葉数はほぼ平年並で分枝数は平年よりやや多い。
したがって、目下の作況は平年並である。

表4 7月20日の小豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			本 葉 数 (枚)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	24	26	▲ 2	7.3	7.3	0.0	5.9	5.6	0.3
エリモショウズ	23	24	▲ 1	7.5	7.6	▲0.1	6.0	5.4	0.6

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

(5) ばれいしょ 作 況 : 平年並

事 由 : 6月4・5半旬に降雨があり、平均気温もやや高めに推移したことから開花始は「農林1号」、「男爵いも」ともほぼ平年並となった。その後も高温に経過したため、前期までに生育の遅れは回復し、茎長は2品種ともほぼ平年並となった。したがって、目下の作況は平年並である。

表5 7月20日のばれいしょの生育

品 種 名	開 花 始 (月日)			茎 長 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
農林1号	6.28	6.27	1	65	65	0
男爵いも	6.26	6.27	△ 1	46	44	2

注1) 平年値は、前5か年の平均値。
2) △は平年より早を示す。

(6) てんさい 作 況 : やや不良

事 由 : 前期に引き続き6月上旬まで少雨傾向に推移したため、生育は抑制気味であった。7月中旬に入り高温で降水量が多くなり、生育は回復方向に向かったが、平年並には回復していない。
すなわち、草丈、生葉数、根周の各項目について「モノホマレ」、「ストーク」とも平年を1割程度下回っている。
したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 7月20日のてんさいの生育

品 種 名	草 丈 (cm)			生 葉 数 (枚/株)			根 周 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
モノホマレ	49	54	▲ 5	20.6	24.0	▲3.4	21.0	22.8	▲1.8
ストーク	48	58	▲ 10	20.3	22.8	▲2.5	21.9	24.4	▲2.5

注1) 「モノホマレ」の平年値は、前5か年平均値。
「ストーク」の平年値は、前2か年の平均値。
2) ▲は平年より減を示す。